



## ～ 自他共栄～ NO.10

2024年10月24日

発行責任者 根岸 大智

編集責任者 情 宣 部

# 2024年度 年末手当第2回交渉～要求の根拠～

中央本部は10月23日に「2024年度年末手当第2回交渉」を行ないました。

### 組合の要求の根拠

- ・10月には2911品目の飲食料品が値上げするほか、電気、ガス、郵便料金も値上げとなり、家計の負担は上がり青年部員の生活は厳しくなっている。
- ・2024年問題において、鉄道貨物輸送は期待され始めているが、自然災害などの遅れや輪軸問題により減収になったが、現在の輸送量は8割越えとなっている。
- ・若年退職が止まらなると同時に、中堅社員の退職も止まっていない。今年度も採用が定数に満たない状況で「選択されない企業」となっている状況である。離職防止に歯止めをかけ、求人票の内容を改善するためにも、期末手当を厚くし、求人票に反映させ、選択される企業になるべき！

### 会社の回答

- ・断片的に物価高で生活苦しくなっていること、賃上げが追い付いていないことは認識するが一方で会社のコストは上がっていて利益を出すことが厳しい状態にある。期末手当は業績給として考えている。会社の期末手当は「業績」「直近の動向」「社員の頑張り」を考慮し、経営判断していく。
- ・本日聞いたことはしっかりと経営陣に伝え、第3回交渉で会社の考えを出していく。

会社は現在の会社の計画で「経営状況は厳しい」とし、職場で安全・安定輸送に努めている組合員に「職場で奮闘してくれていることには深く感謝している」としているが、職場の青年部員に応えようとする姿勢は感じられない。現在、直近の収入動向では計画以上を達成していることから、会社に支払う体力はある。安全施策を最先頭で担うのは職場の組合員であり、「厳しい」だけでは組合員は納得できない！要員不足の中、安全・安定輸送を維持し、特に要員がひっ迫している運転士について会社は、「来年のダイヤ改正で全体数は足りる」としているが、数字しか見ていない会社に対し、青年部は現場実態を踏まえ意思統一を行ない声をあげていこう！

**今こそ人件費にお金をまわすべき時であり、それが今年末手当だ!!**  
**「社員に感謝」と言うが、この間の会社姿勢から「期末手当で見えない」というのが職場の声だ!!**